

三菱UFJフィナンシャル・グループ

2009年度中間決算説明会

2009年11月27日

Quality for You



MUFG

本書には、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(以下「当社」という)およびそのグループ会社(以下「当グループ」という)に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポートをご参照下さい。

なお、本書における将来情報に関する記述は上記のとおり本書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本書に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本書の計数は日本会計基準ベースの数値を使用しています。

<本資料における計数の定義>



連結

PL項目 05年度下期以降の計数は、三菱UFJフィナンシャル・グループ(連結)
05年度上期以前の計数は、三菱東京フィナンシャル・グループ(連結)とUFJホールディングス(連結)の単純合算

BS項目 06年3月末以降の計数は、三菱UFJフィナンシャル・グループ(連結)
05年9月末以前の計数は、三菱東京フィナンシャル・グループ(連結)とUFJホールディングス(連結)の単純合算

単体合算※

PL項目 06年度上期以降の計数は、三菱東京UFJ銀行(単体)と三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算
05年度下期の計数は、三菱東京UFJ銀行(単体)、UFJ銀行(単体、10~12月)、三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算
05年度上期以前の計数は、東京三菱銀行(単体)、UFJ銀行(単体)、三菱信託銀行(単体)およびUFJ信託銀行(単体)の単純合算

BS項目 06年3月末以降の計数は、三菱東京UFJ銀行(単体)と三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算
05年3月末の計数は、東京三菱銀行(単体)、UFJ銀行(単体)、三菱信託銀行(単体)およびUFJ信託銀行(単体)の単純合算

※特に断りのない限り、分離子会社を含まない

はじめに

- 2009年度中間期の総括 5

2009年度中間決算の概要

- 2009年度中間決算サマリー(P/L) 7
- 2009年度中間決算サマリー(B/S) 8
- 部門別業績概要 9
- リテール 10
- 法人国内 11
- 法人海外 12
- 受託財産 13
- 貸出資産 14
- 保有有価証券 15
- 保有証券化商品等 16
- 自己資本 17
- 2009年度業績目標／配当金予想 18

MUFGの経営戦略

- 中期経営計画の概要 21
- 質を重視した適切な資本運営 22
- 経営効率化の進捗 23
- 政策投資株式の削減 24
- 消費者金融戦略:アコム 25
- 米国戦略:UNBC 26
- 成長戦略:コア戦略 27
- 成長戦略:リテール 28
- 成長戦略:法人海外 29
- モルガン・スタンレーとの戦略的提携 30
- 資本政策 33
- 経営方針 34

Appendix

● **はじめに**

● **2009年度中間決算の概要**

● **MUFGの経営戦略**

- **統合効果の発現などから連結業務純益は増加
中間純利益は業績目標を上回る1,409億円**
- **中計における課題への対応は着実に進捗
～経営効率化、政策投資株式の削減など**
- **モルガン・スタンレーとの提携も国内外で具体化**
- **中核的自己資本の充実などを目的に普通株式の
発行登録を実施**

● はじめに

● **2009年度中間決算の概要**

● MUFGの経営戦略

2009年度中間決算サマリー(P/L)

【連結】



(単位:億円)

●業務純益

- 業務粗利益は金利低下に伴う預金収益の減少があったものの、内外法人貸出収益、市場関連収益の増加のほか、アコム連結化により増加
- 営業費は統合効果の発現に加え、グループ挙げての”聖域なき”経費削減に取り組み減少
- 以上の結果、実質業務純益は大幅な増加アコム連結化除いても増益を確保(534億円)

●与信関係費用

- 単体合算では減少したものの、その他連結子会社での増加、アコム連結化により増加

●株式等関係損益

- 株式等償却負担の減少を主因に大幅に増加し損失計上から利益計上に

●その他の臨時損益

- 退職給付費用の増加を主因に減少

<連結P/L>

	08年 上期	09年 上期	増減	除く アコム
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	16,965	18,132	1,166	▲59
2 資金利益	9,705	11,152	1,446	327
3 信託報酬+役員取引等利益	5,721	5,456	▲265	-
4 特定取引利益+その他業務利益	1,538	1,524	▲14	-
5 うち国債等債券関係損益	113	248	135	-
6 営業費	10,727	10,614	▲112	▲594
7 実質業務純益	6,238	7,517	1,279	534
8 与信関係費用*1	▲3,349	▲4,442	▲1,093	▲431
9 うち単体合算	▲2,422	▲2,240	182	-
10 株式等関係損益	▲752	133	886	882
11 その他の臨時損益	▲254	▲877	▲623	-
12 経常利益	1,881	2,330	449	-
13 特別損益	6	▲186	▲193	-
14 法人税等合計	476	425	▲50	-
15 中間純利益	920	1,409	489	496

*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額
+与信関係費用(臨時損益内) (▲は費用)

<ご参考>

(単位:円)

16 1株当たり利益	8.46	11.08	2.62
17 連結ROE *2	2.58%	3.77%	1.19%

*2

中間純利益×2-非転換型優先株式年間配当相当額

((期首株主資本合計-期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定) ×100
+ (期末株主資本合計-期末発行済非転換型優先株式数×払込金額+期末為替換算調整勘定)) ÷2

2009年度中間決算サマリー(B/S)

【連結】



●貸出金

■国内外における法人貸出の減少を主因に09年3月末比減少

●有価証券

■国債投資の増加により、09年3月末比大幅な増加

●預金

■国内預金は減少の一方、海外店預金の大幅増加等により09年3月末比増加

●開示債権

■開示債権の増加により、開示債権比率は09年3月末比悪化も、依然低水準

●その他有価証券評価損益

■株式相場の上昇等により、09年3月末比大幅に増加し、評価益を計上

<連結B/S>

(単位:億円)

	09年3月末	09年9月末	09/3末比
1 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	922,566 [920,568]	882,072 [880,320]	▲40,493 [▲40,247]
2 うち国内法人貸出*1	502,392	481,131	▲21,261
3 うち住宅ローン*1	173,642	173,015	▲626
4 うち海外貸出*2	194,885	175,009	▲19,876
5 有価証券(銀行勘定)	483,141	573,843	90,702
6 預金	1,201,495	1,220,437	18,941
7 うち個人預金(国内店)	628,816	628,444	▲371
8 国内預貸金利回り差 (単体合算)	(08年下期) 1.44%	(09年上期) 1.34%	(08年下比) ▲0.09%
9 金融再生法開示債権*1	11,899	12,459	559
10 開示債権比率*1	1.24%	1.38%	0.13%
11 その他有価証券評価損益	▲9,177	4,148	13,326
12 連結自己資本比率 (Tier1比率)	11.77% (7.76%)	13.29% (9.13%)	1.52% 1.36%

*1 単体合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオン・バンカール・コーポレーション+BTMU(中国)

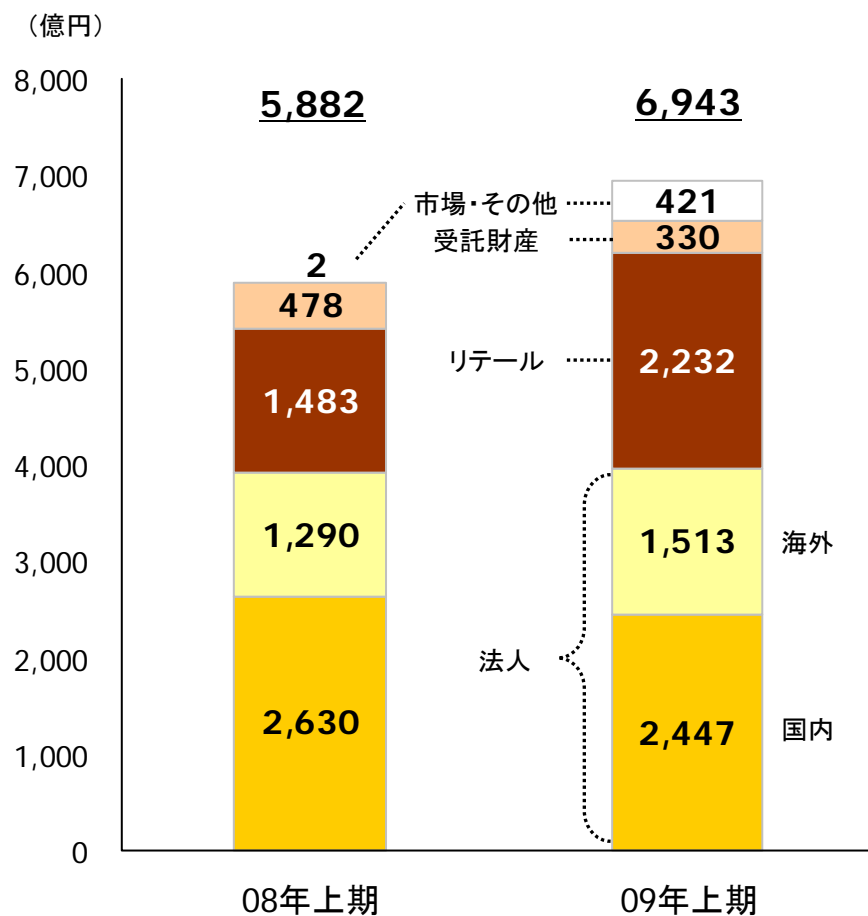
部門別業績概要

【連結】

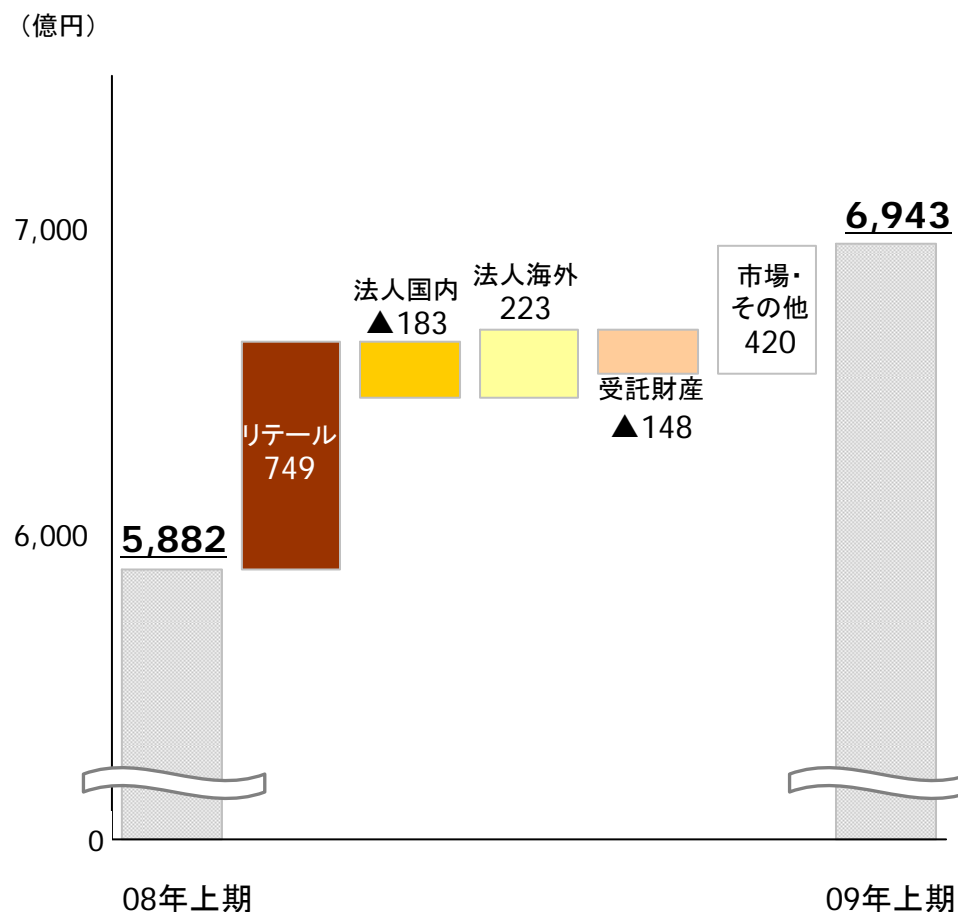


- 株価低迷により受託財産が微減となる一方、法人は国内、海外における堅調な貸出収益により預金収益等の減少をカバー。リテール、市場・その他では増加し、全体では前同比+1,061億円

部門別営業純益*1



営業純益増減内訳*1

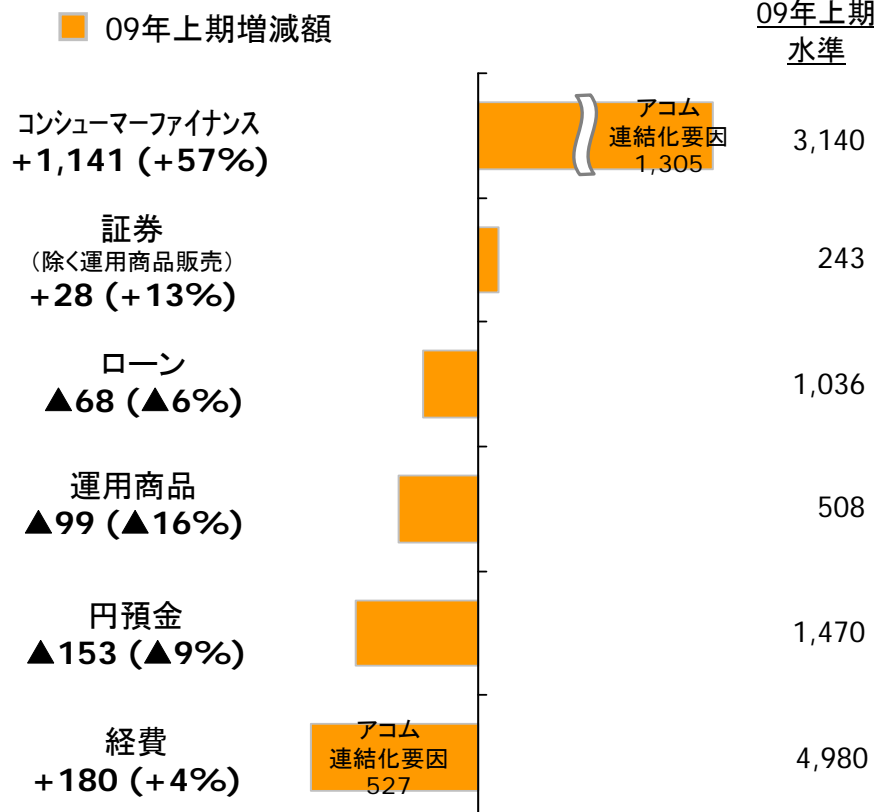


*1 管理ベースの連結業務純益
信用リスクヘッジに係るクレジットデリバティブ損益は「市場・その他」に計上

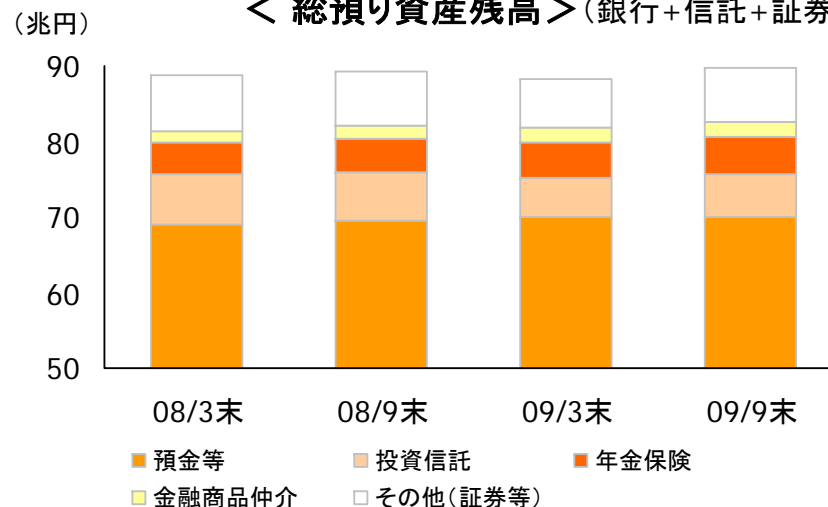
- 営業純益は前年同期比+749億円の2,232億円
 ~アコム連結化や証券収益増加の一方、円預金や運用商品等が減収
 ~運用商品販売は08年度下期比増加、前年同期レベルに回復

営業純益の主な変動要因

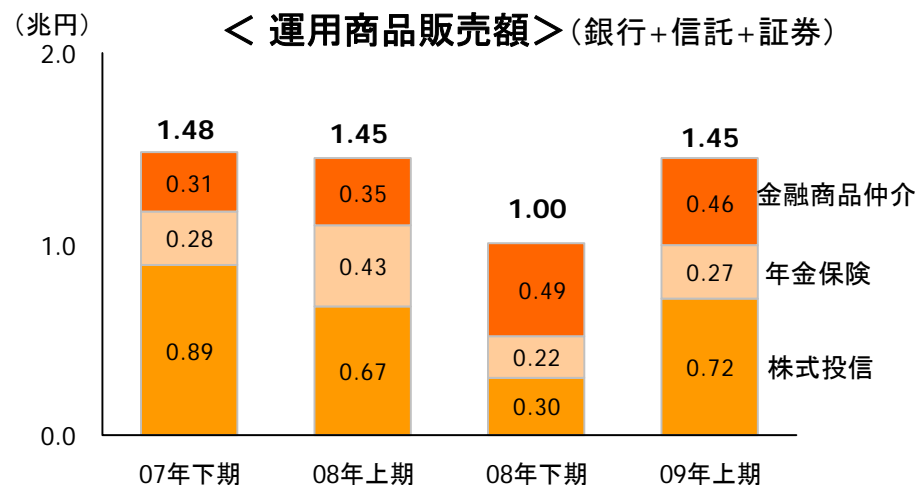
09年上期 2,232億円 (08年上期比+749億円)



＜総預り資産残高＞ (銀行+信託+証券)



＜運用商品販売額＞ (銀行+信託+証券)



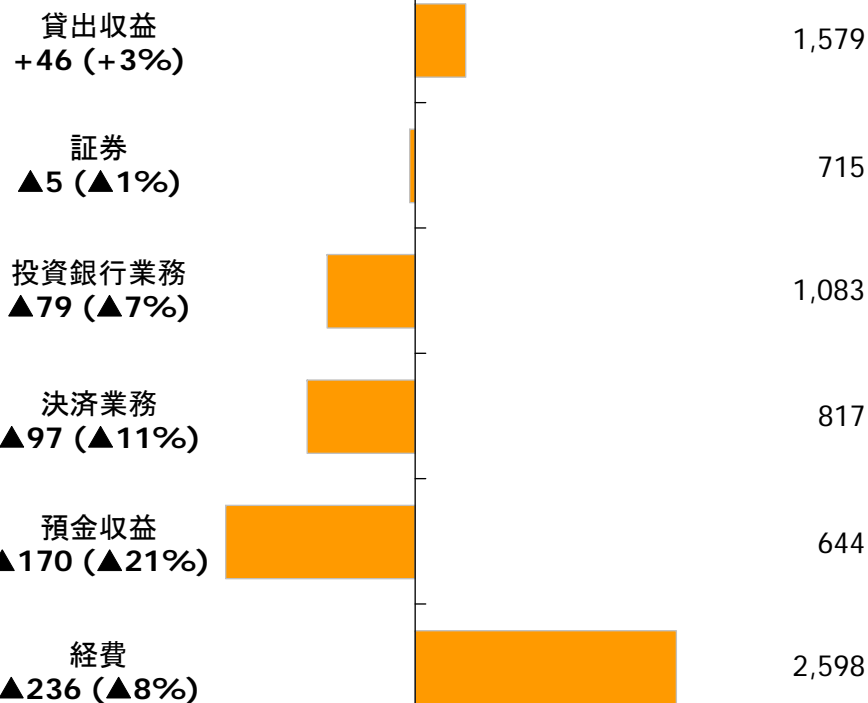
詳細は「データブック」P. 40~45をご参照ください

- 営業純益は前年同期比▲183億円*1の2,447億円*1
 ~ 貸出収益は増加するもその他の業務で減収、貸出スプレッドは底打ち

営業純益の主な変動要因

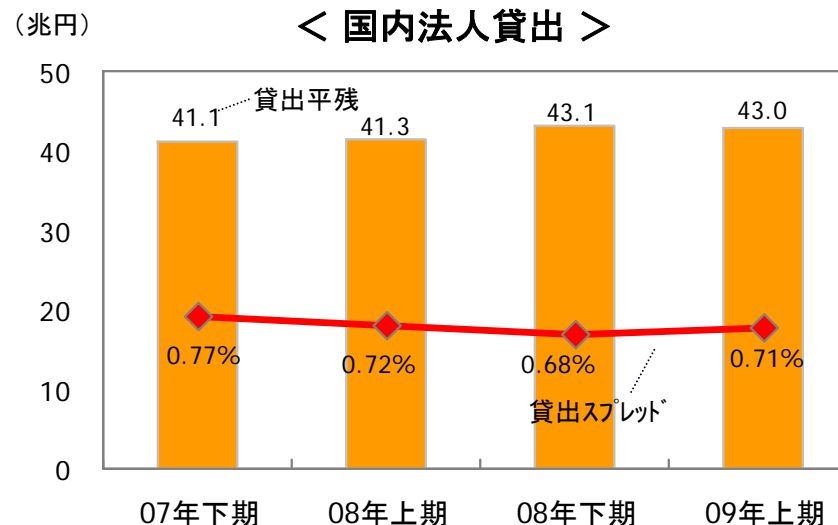
09年上期2,447億円*1 (08年上期比▲183億円)

09年上期増減額

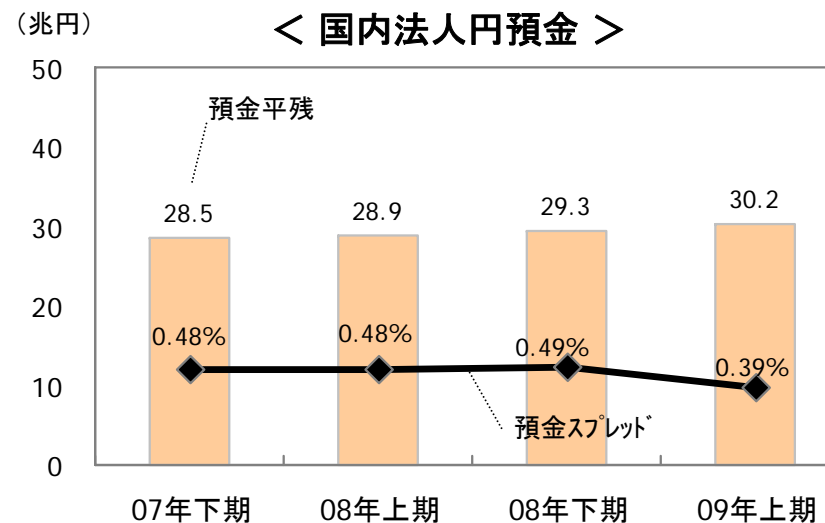


*1 CDS損益を含まず

＜国内法人貸出＞



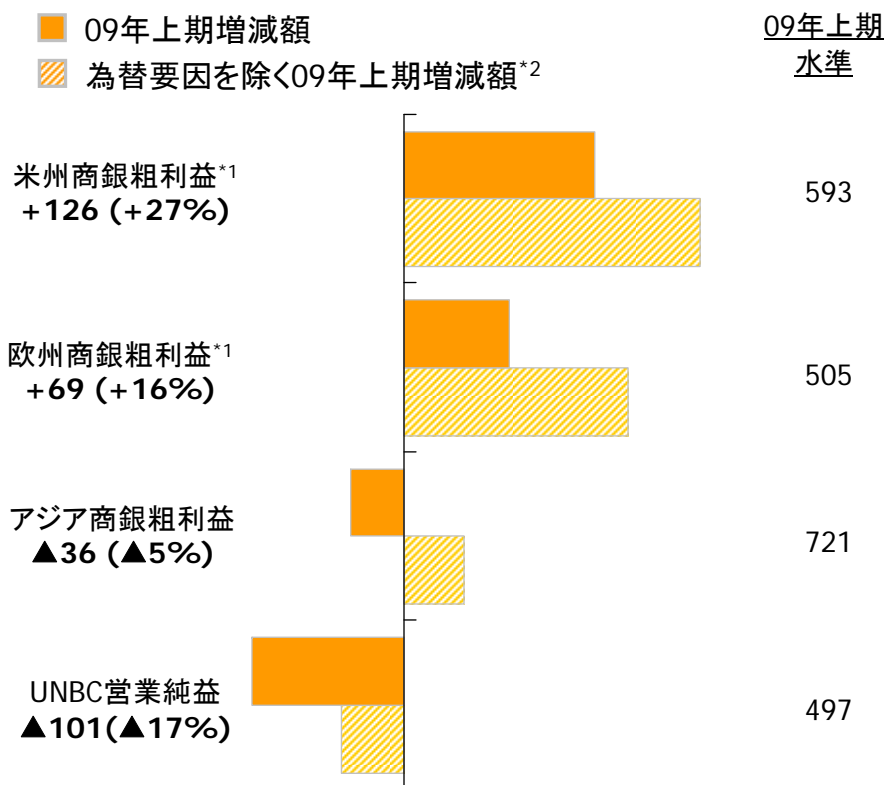
＜国内法人円預金＞



- 営業純益は前年同期比+223億円*1の1,513億円*1
 ~ 欧米アジアとも対顧客ビジネスは順調、貸出スプレッドは更に拡大

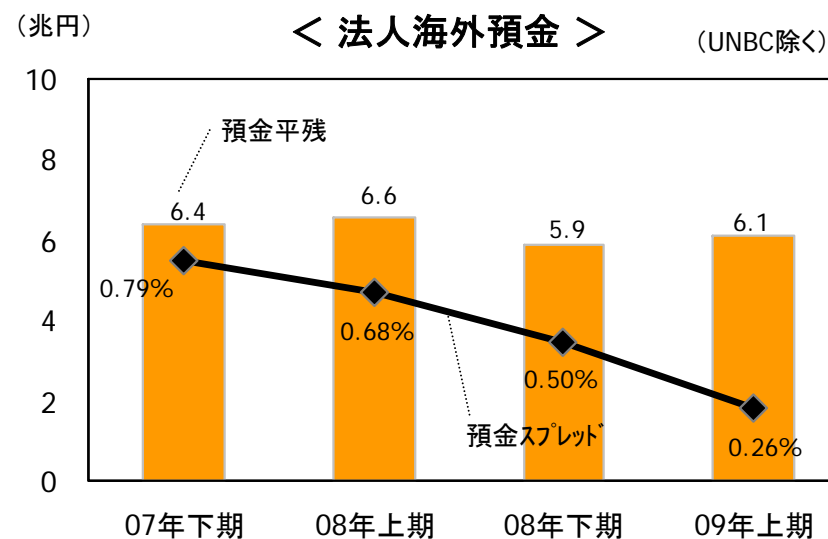
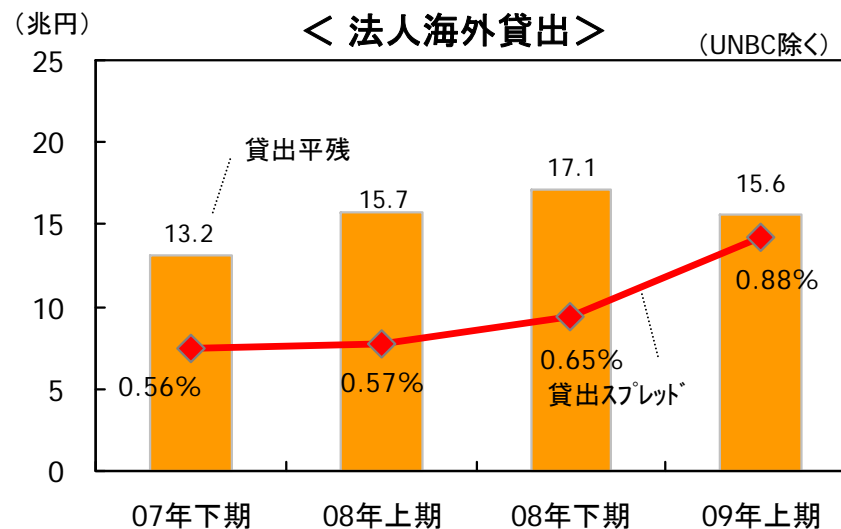
営業純益の主な変動要因

09年上期1,513億円*1 (08年上期比+223億円*1)



*1 CDS損益を含まず *2 業務計画レート(\$1=95円、他)

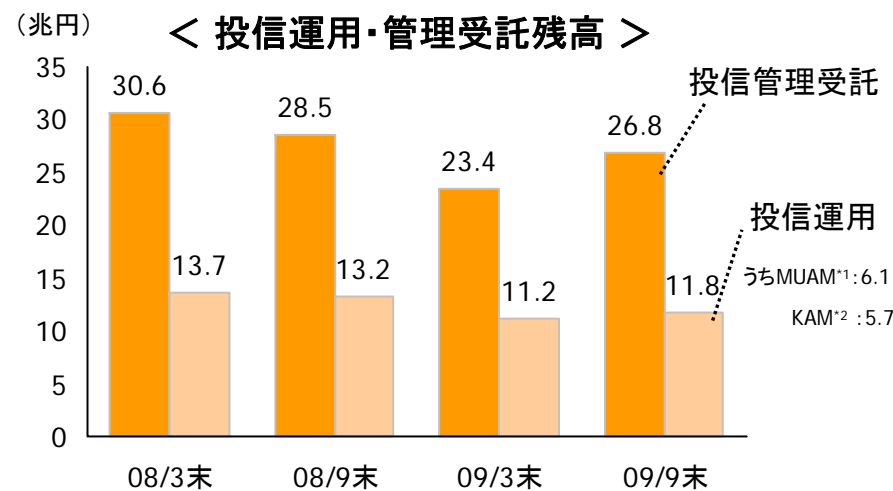
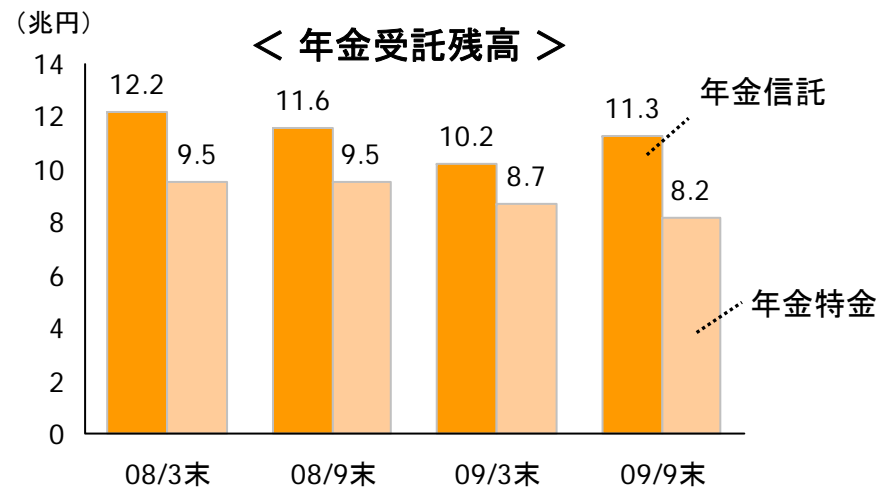
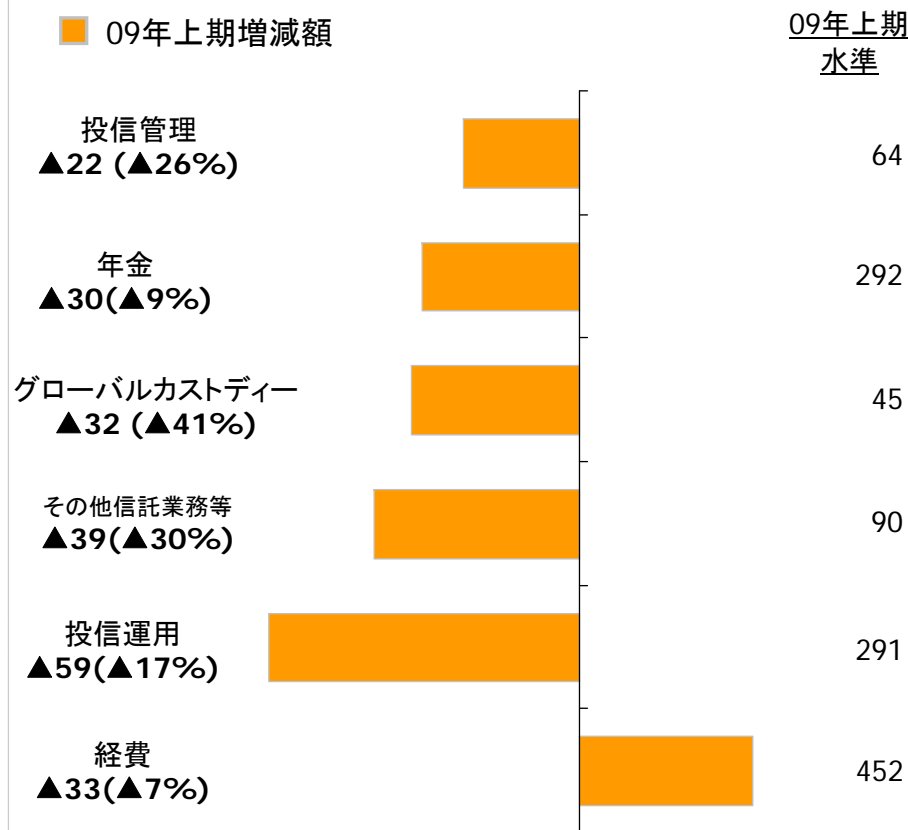
詳細は「データブック」P. 51~54をご参照ください



- 営業純益は前年度比▲148億円の330億円
～時価下落等から前年対比では残高減少するも、前年度末比では残高回復

営業純益の主な変動要因

09年上期 330億円(08年上期比▲148億円)



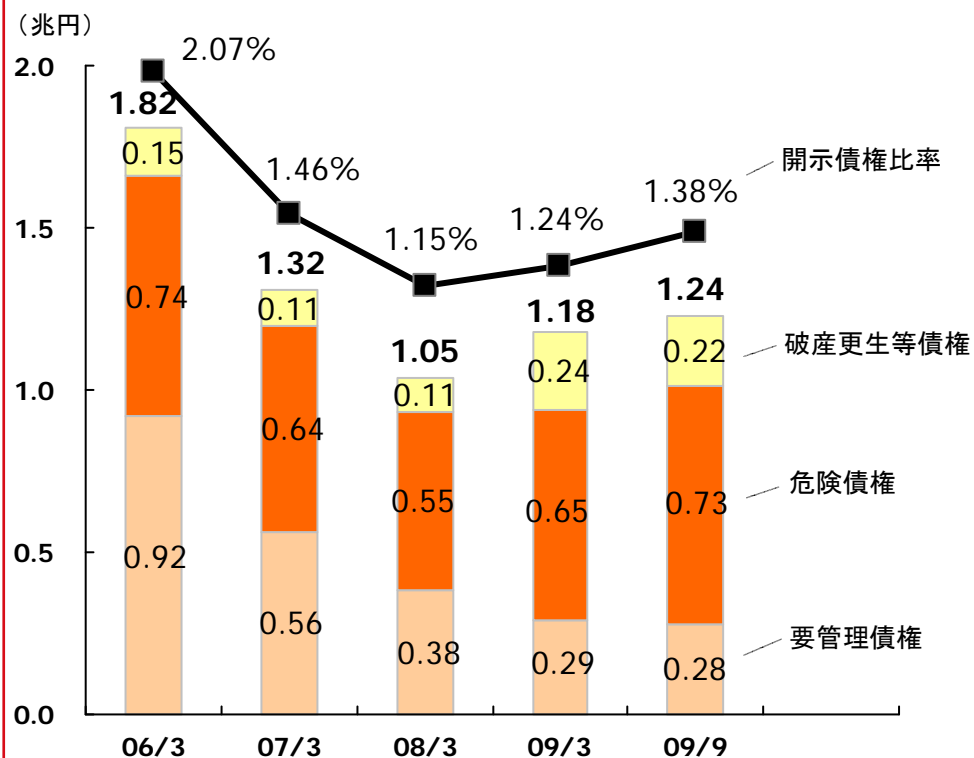
*1 MUAM: 三菱UFJ投信

*2 KAM: 国際投信投資顧問

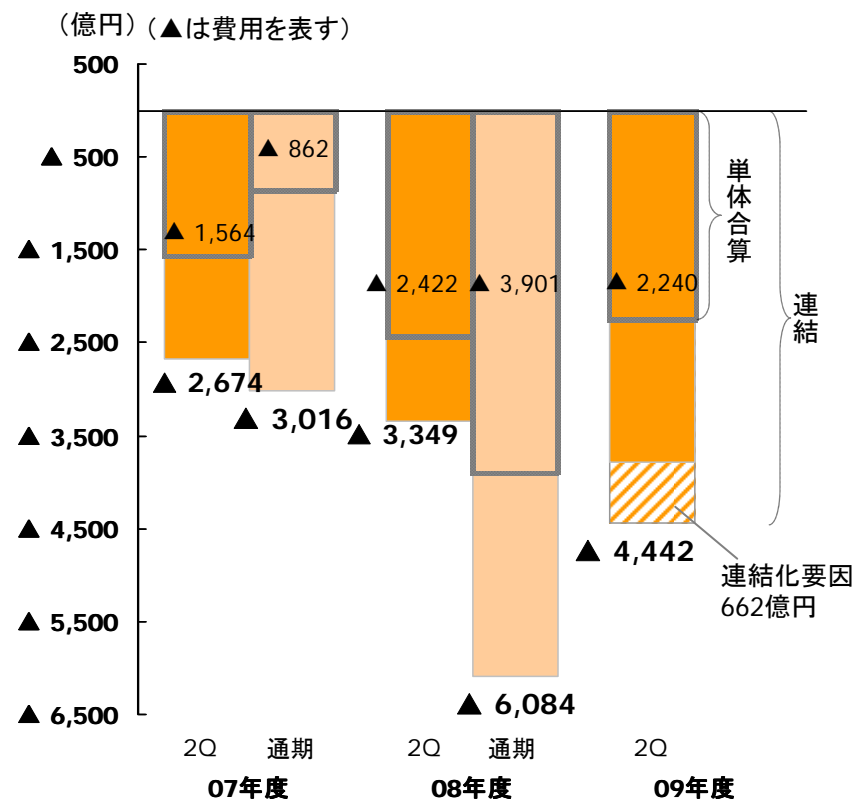
詳細は「データブック」P. 56～59をご参照ください

- 危険債権の増加により、開示債権比率は09/3末比0.13ポイント上昇の1.38%
- 与信関係費用総額は単体合算で2,240億円、連結では4,442億円の費用計上

金融再生法開示債権残高(単体合算)



与信関係費用総額



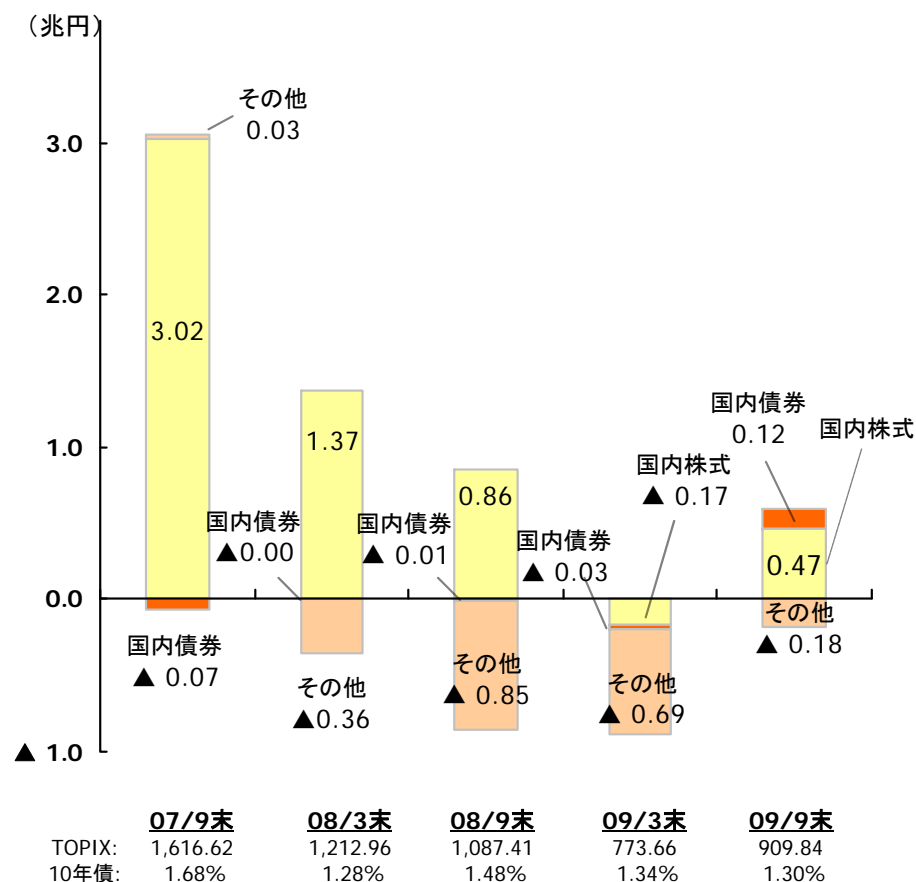
- 国内株式を中心に全項目で評価損益が改善。その他有価証券全体の評価損益は09/3末比1.33兆円増加

その他有価証券(時価あり)の内訳

(億円)

	09年9月末 残高	評価損益	
			09/3末比増減
合計	505,005	4,148	13,326
国内株式	42,722	4,768	6,566
国内債券	334,620	1,242	1,627
その他	127,662	▲1,862	5,132
外国株式	3,079	636	843
外国債券	104,964	611	902
その他	19,617	▲3,109	3,386

その他有価証券評価損益の推移



● 証券化関連商品等の残高は約1.98兆円(09/3末比▲0.31兆円)

残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)、管理ベース

- 証券化商品等の残高は、格下げ・価格下落リスクのある銘柄の売却および償還により、1.98兆円に減少(09/3末▲0.31兆円)
- 評価損益は▲2,060億円と、09/3末比1,780億円改善
- 当中間期(09年上期)の損益(P/L)への影響額は、売却損等による▲160億円

残高及び評価損益

	(億円)	残高		評価損益		内、満期保有目的の債券*	
			09/3末比		09/3末比	残高	評価損益
1	RMBS	1,060	▲920	▲60	410	0	0
2	うちサブプライム	340	▲160	0	90	0	0
3	CMBS	250	▲30	▲20	0	0	0
4	CLO	15,670	▲1,290	▲1,860	1,000	12,290	▲1,450
5	その他(カード等)	2,730	▲800	▲100	360	280	▲10
6	CDO	130	▲60	▲20	0	40	▲10
7	SIV	0	0	0	0	0	0
8	合計	19,830	▲3,100	▲2,060	1,780	12,600	▲1,470

* 実務対応報告第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」の公表に伴い、09年1月末以降に保有証券化商品の一部を「その他有価証券」から「満期保有目的の債券」に区分変更。なお、上記満期保有目的の債券の残高・評価損益は、区分変更前の簿価を基準としています。

● 自己資本額

■ 有価証券評価損が含み益に転じたこと、優先出資証券の発行等により、09年3月末比1.47兆円増加

● リスクアセット

■ 株価上昇やパラメータ変動等による増加と、証券化等の残高減少が、略同水準

〔採用手法〕

■ 信用リスク：〔08年9月末〕
基礎的内部格付手法 (FIRB)
〔09年3月末以降〕
先進的内部格付手法 (AIRB)

■ オペレーショナルリスク：粗利益配分手法

● 自己資本比率 : 13.29%
Tier1比率 : 9.13%
コアTier1比率*1 : 6.83%

*1 コアTier1 = Tier1 - (優先株式 + 優先出資証券)
コアTier1比率 = コアTier1 ÷ リスクアセット

(単位: 億円)

	08年9月末	09年3月末	09年9月末	09/3末比
1 自己資本比率	10.55%	11.77%	13.29%	1.52%
2 Tier1比率	7.63%	7.76%	9.13%	1.36%
3 コアTier1比率	6.15%	5.77%	6.83%	1.06%
4 Tier 1	83,804	75,751	88,943	13,191
5 うち優先株式	2,613	6,400	6,400	—
6 うち優先出資証券	13,703	13,071	16,010	2,939
7 うち有価証券評価損	▲416	▲8,038	—	8,038
8 Tier 2	37,660	42,161	43,835	1,674
9 うち有価証券含み益	—	—	1,851	1,851
10 うち劣後債	34,396	37,792	37,515	▲277
11 自己資本	115,902	114,784	129,489	14,704
12 リスクアセット	1,097,891	974,934	973,682	▲1,251
13 信用リスク	1,015,364	902,429	899,023	▲3,406
14 マーケットリスク	23,202	15,876	17,776	1,899
15 オペレーショナルリスク	59,324	56,627	56,883	255

2009年度業績目標／配当金予想

【連結・単体】



【業績目標】

〔連結〕

		中間期 (実績)	09年度通期 (目標)
1	経常利益	2,330億円	6,000億円
2	当期純利益	1,409億円	3,000億円

【配当金予想】

		中間配当金	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)
1	普通株式1株当たり 配当金	6円	6円	12円

〔三菱東京UFJ銀行〕

(単体)		中間期 (実績)	09年度通期 (参考値)
1	実質業務純益	4,080億円	8,650億円
2	経常利益	1,250億円	3,650億円
3	当期純利益	1,307億円	2,450億円

〔三菱UFJ信託銀行〕

(単体)		中間期 (実績)	09年度通期 (参考値)
1	実質業務純益	529億円	1,200億円
2	経常利益	353億円	650億円
3	当期純利益	247億円	450億円

余白

● はじめに

● 2009年度中間決算の概要

● **MUFGの経営戦略**

- 本年4月より、2011年度までの中期経営計画をスタート

前半

(2009年度～2010年度半ば)

危機管理と飛躍への準備

- ① 新たな自己資本規制への対応
- ② 経営効率化
- ③ 政策投資株式の削減
- ④ 安定的株主還元の確保

後半

(2010年度半ば～2011年度)

成長戦略の加速

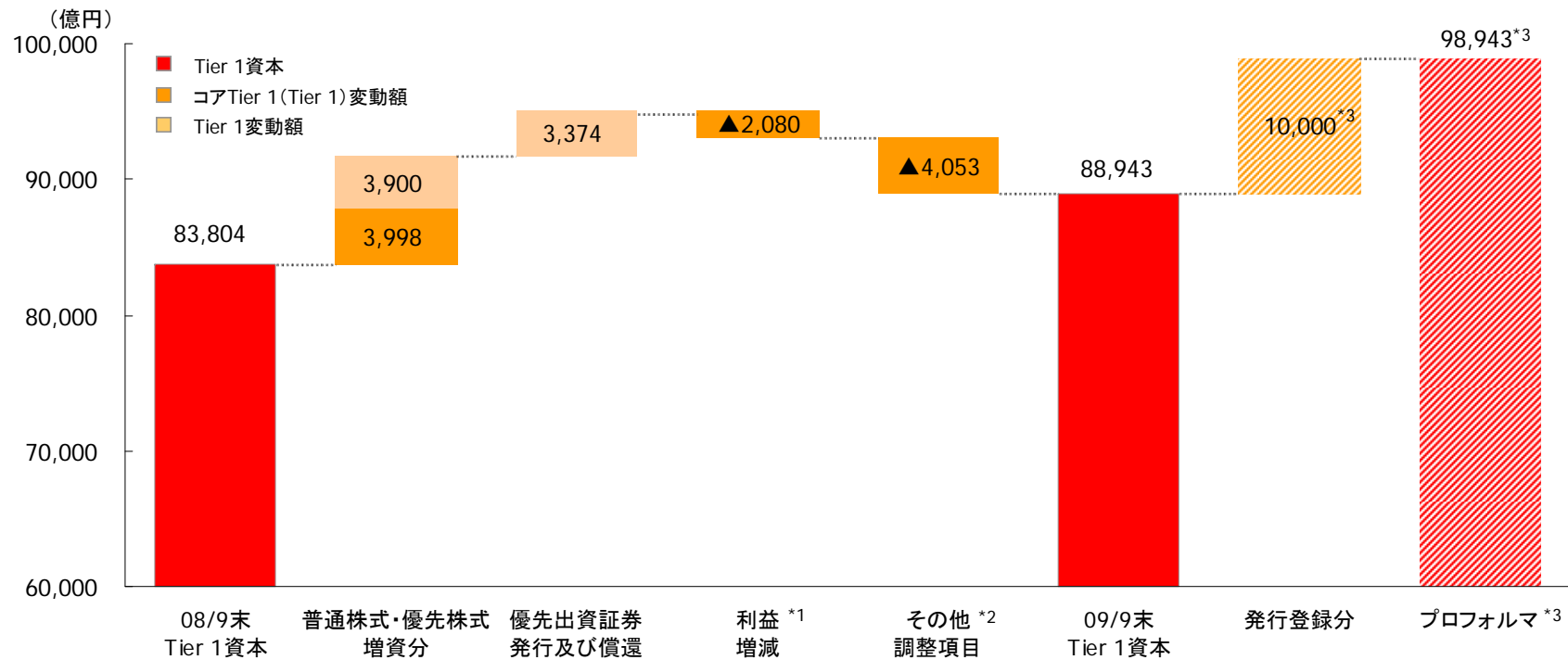
- ① 重点事業領域の成長促進
- ② 健全な自己資本の維持
- ③ 株主還元の充実

質を重視した適切な資本運営



- 環境変化を踏まえた適切かつ積極的な資本運営により、資本の質と量を向上

Tier 1資本の主な変動(2008年10月以降)



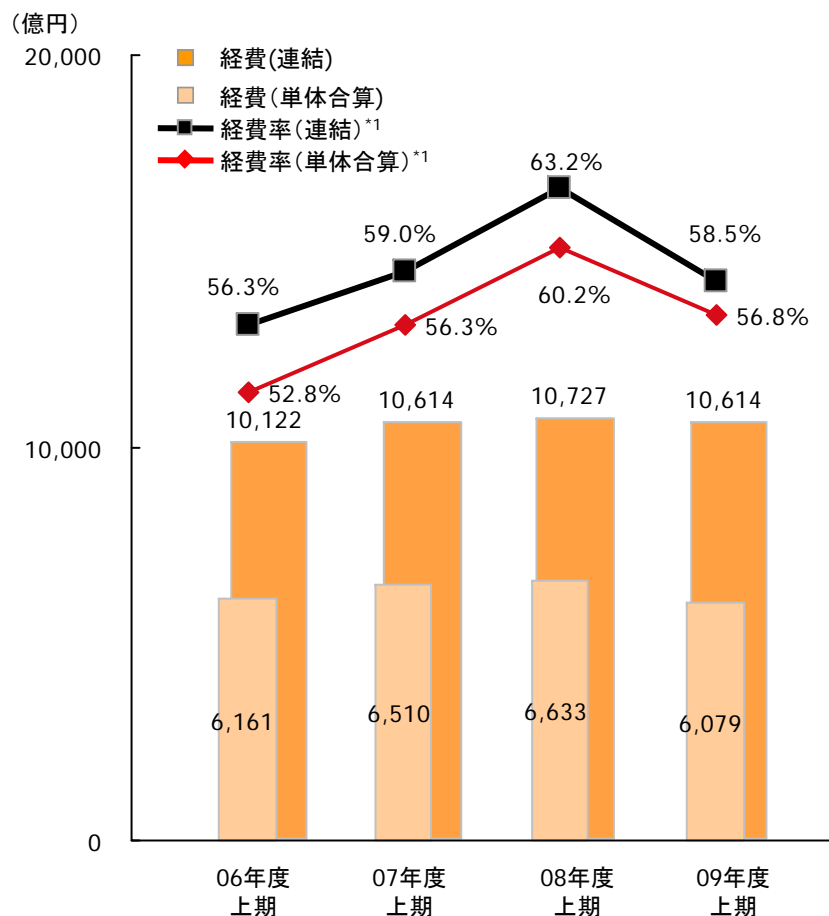
*1 2008年10月 - 2009年9月までは当期純損失を計上
 *2 為替換算調整勘定、連結調整勘定、その他有価証券評価差損、繰延税金資産純額の増減等
 *3 2009年11月18日、上限を1兆円とする普通株式発行登録を決議
 *4 コアTier 1比率=(Tier 1資本-優先株式-優先出資証券) / リスクアセット

経営効率化の進捗



- 新システム移行効果と経営効率化により、単体合算経費は前年同期比553億円減少(▲8%)
- 連結経費もアコム連結化要因を打ち返して前年同期比減少

経費の推移



*1 経费率=営業経費 / 業務粗利益 (信託勘定償却前)

連結経費の内訳

(億円)

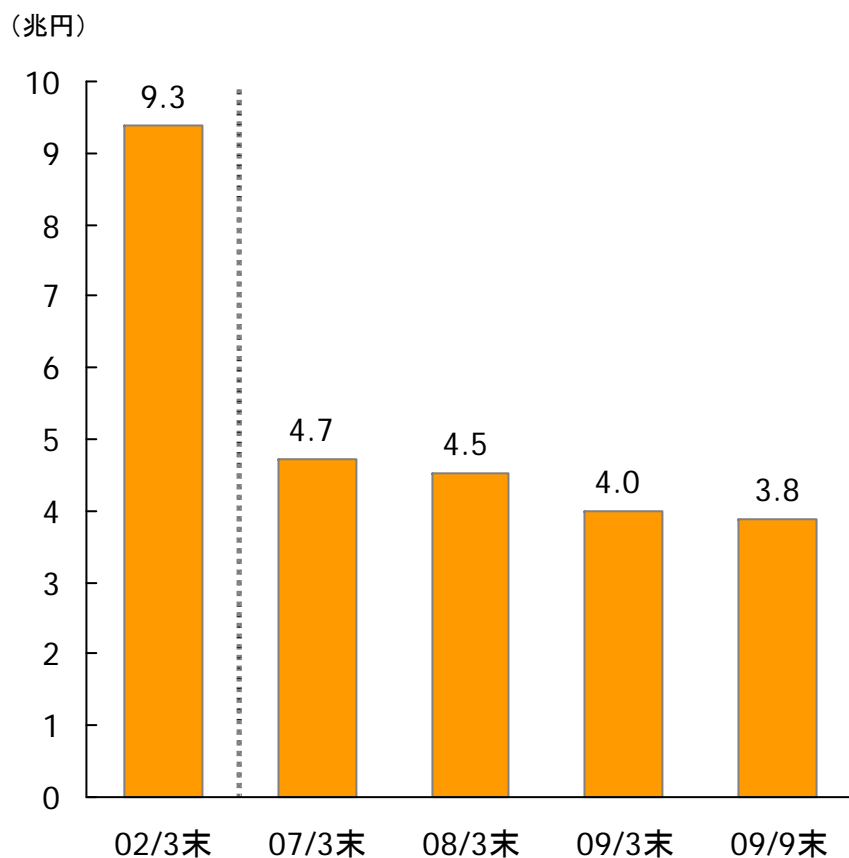
	08年 上期	09年 上期	増減	増減率
連結経費	10,727	10,614	▲112	▲1.0%
経费率*1	63.2%	58.5%	▲4.6ポイント	—
三菱東京UFJ銀行(単体)	5,634	5,099	▲535	▲9.5%
三菱UFJ信託銀行(単体)	998	980	▲18	▲1.8%
(単体合算)	6,633	6,079	▲553	▲8.3%
うち人件費	2,250	2,227	▲22	▲0.9%
うち物件費	3,970	3,537	▲432	▲10.8%
うち減価償却費・リース	952	830	▲121	▲12.7%
三菱UFJ証券	1,021	1,001	▲19	▲1.9%
UNBC	923	869	▲54	▲5.8%
三菱UFJニコス	1,269	1,169	▲99	▲7.8%
アコム	—	481	481	—

政策投資株式の削減

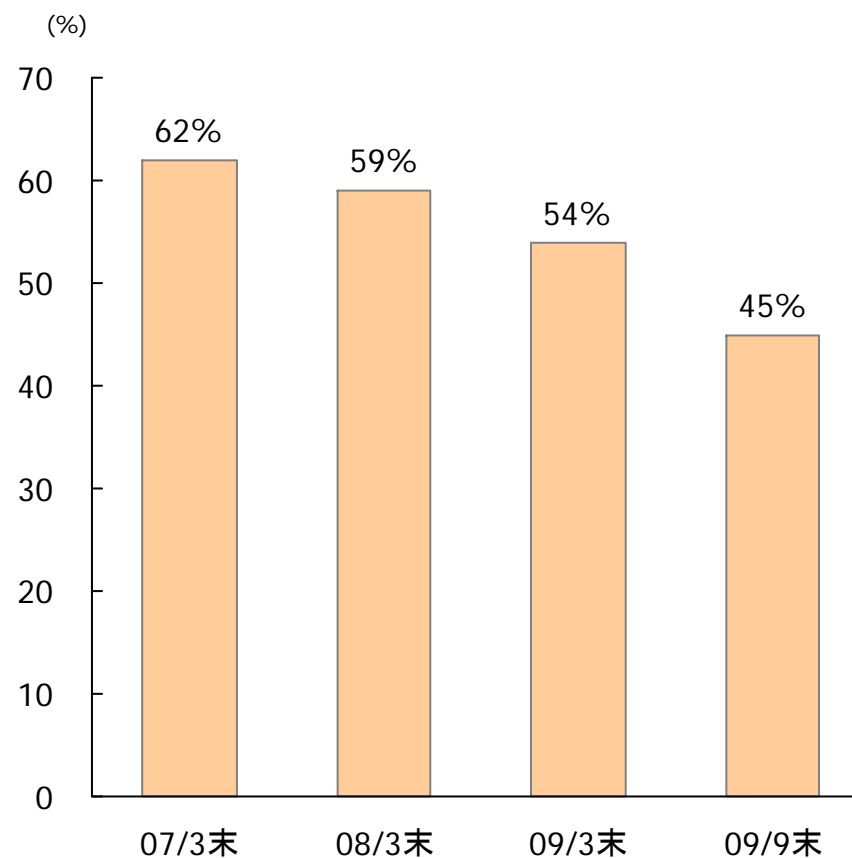


- 株価変動の資本への影響を一段と抑制すべく、政策投資株式を削減
 - － 日本銀行、銀行等保有株式取得機構等を活用し市場への悪影響を極力排除

保有株式(取得原価)*1



保有株式(取得原価)*1対Tier 1*2比率



*1 その他有価証券で時価のある国内株式(単体合算)

*2 Tier1資本(単体合算)

消費者金融戦略:アコム



- 市場の縮小、利息返還請求の高止まり等環境は厳しいが、市場シェアは着実に拡大
- 更なる経営体制の強化により磐石な収益力の構築を図る
- 財務面の優位性を活かし、残存者利益を追求

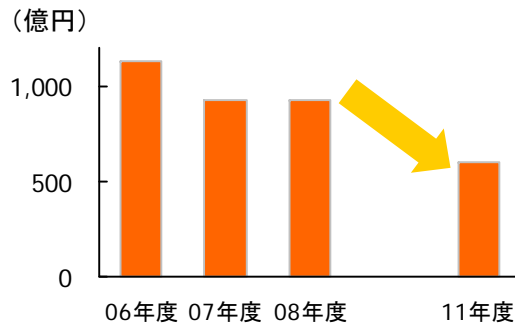
損益の推移

(億円)

	07年度	08年度	09年上期
1 営業収益	3,797	3,243	1,417
2 営業費用	2,980	2,936	1,336
3 貸倒引当金繰入額	1,158	878	610
4 利息返還損失引当繰入額	196	521	87
5 営業利益	816	307	80
6 経常利益	831	326	92
7 当期純利益	354	136	24
8 貸出シェア(%)*1	16.0%	17.2%	19.1%

経営体制強化

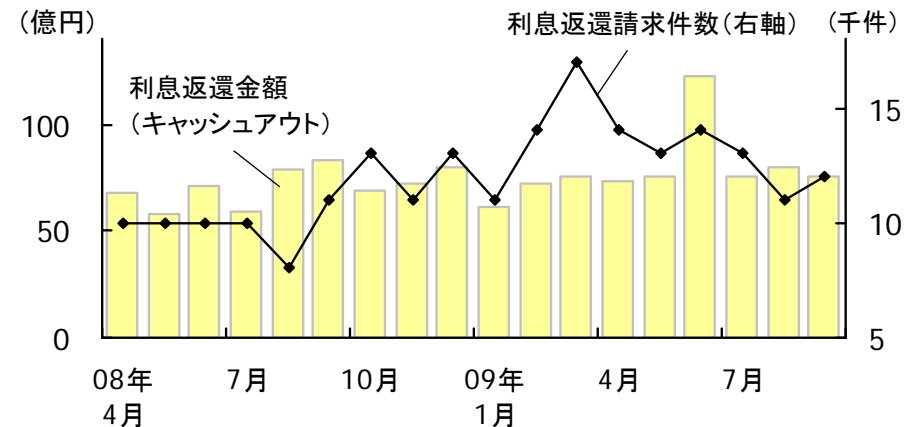
- 更なる経費削減により経営体制を強化



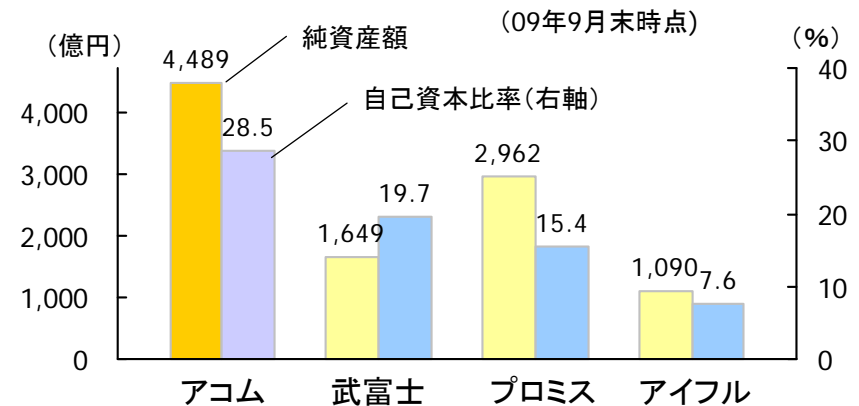
- 営業店舗の再編
- 人員の効率化
- 電算機費、広告宣伝費等を削減

出所：日本貸金業協会（09年9月末は速報値）
*1 アコム(単体)のローン事業残高/消費者金融業態の貸出残高

利息返還金・返還請求件数推移



純資産額と自己資本比率



出所：各社公表資料

米国戦略:UNBC

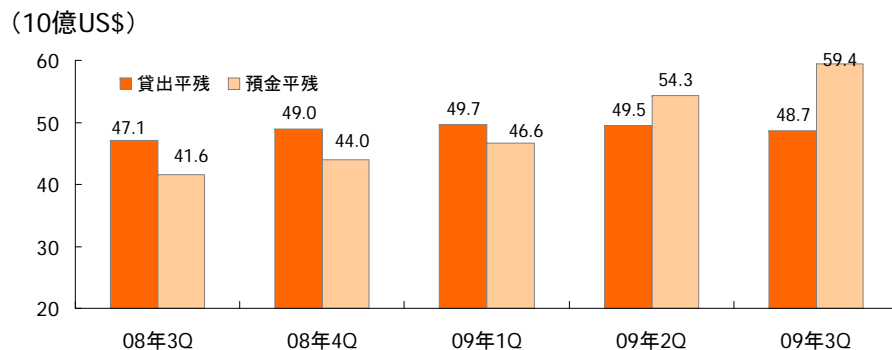


- 与信費用増加により業績悪化するも、規律ある経営により競合他社比のパフォーマンスは良好～高い信用力を背景に預金も大幅増加
- 悲観シナリオを前提に20億ドルの予防的資本注入を実施
- 完全子会社化により北米における経営戦略の一貫性と効率的な資源配分を確保

業績の推移

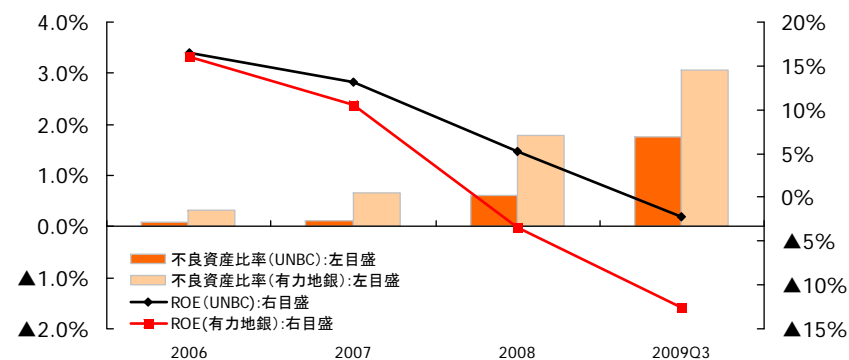
(単位:百万US\$)	07年	08年	09年		
			Q1	Q2	Q3
粗利益	2,532	2,833	737	736	748
営業費用	1,574	1,896	521	532	505
業務純益	957	936	215	204	242
貸倒引当金繰入額	81	515	249	360	314
当期純利益	608	268	▲9	▲80	▲17
当期純利益 (除く統合関連損益、 非継続事業)	573	367	11	▲66	▲5

貸出・預金平残の推移



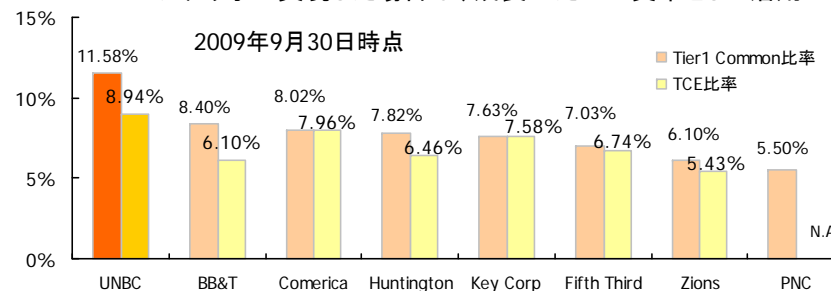
*1 Peer計数は以下7行の各社開示計数の単純平均
 BB&T: BB&T Corporation、Comerica: Comerica Incorporated、Huntington: Huntington Bancshares Incorporated、Key Corp: Key Corp Ltd、Fifth Third: Fifth Third Bancorp、Zions: Zions Bancorporation、PNC: The PNC Financial Services Group, Inc.

ROE^{*1,2}、不良資産比率の有力地銀との比較^{*1,3}



中核自己資本比率の有力地銀との比較

- 公的資金の注入を受けた米銀に劣後しない資本基盤を確保
- ベースシナリオが実現した場合は、成長のための資本として活用



出所: 各社公表資料

*2 2009Q3は年換算ベース

*3 各社定義に基づき算出

成長戦略:コア戦略

- グループ総合力と顧客基盤の優位性を活かし成長分野で事業戦略を推進
～セグメント戦略、CIB戦略、アジア戦略、グローバルアセットマネジメント戦略

MUFGグループ総合力



コア戦略

リテール	法人国内	法人海外	受託財産
セグメント戦略 ～運用商品販売 チャンネル最適化	CIB ソリューション業務 トランザクション業務	アジア 非日系/CIB	グローバル アセット マネジメント

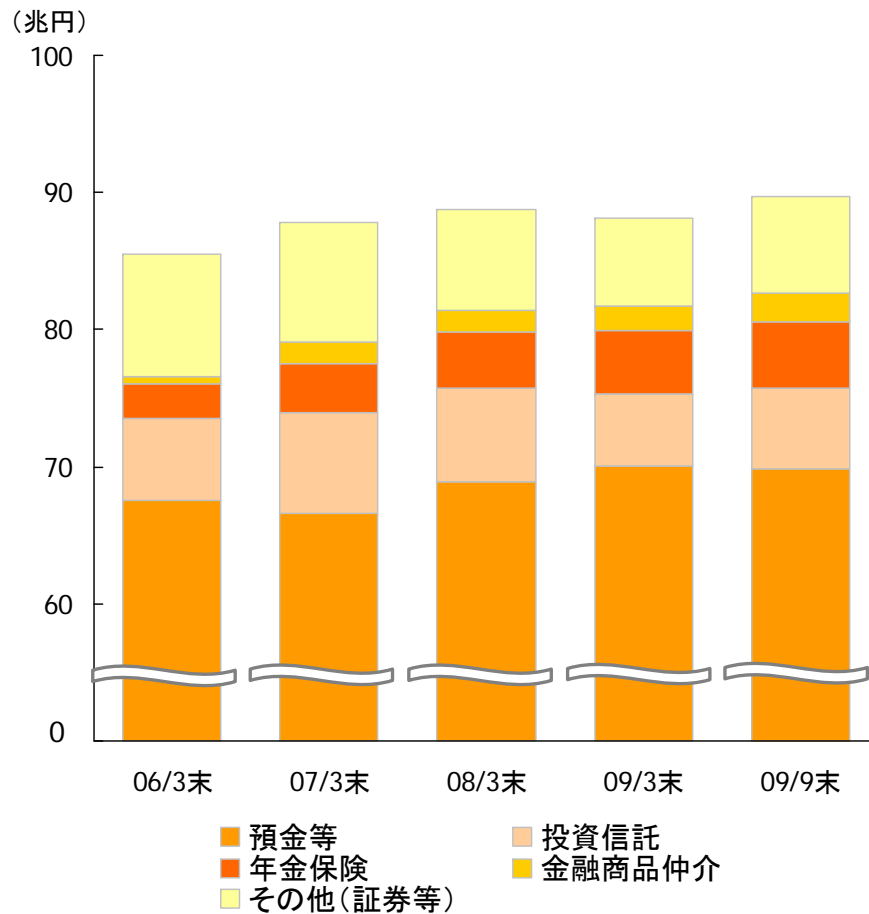
MUFGの顧客基盤

成長戦略:リテール



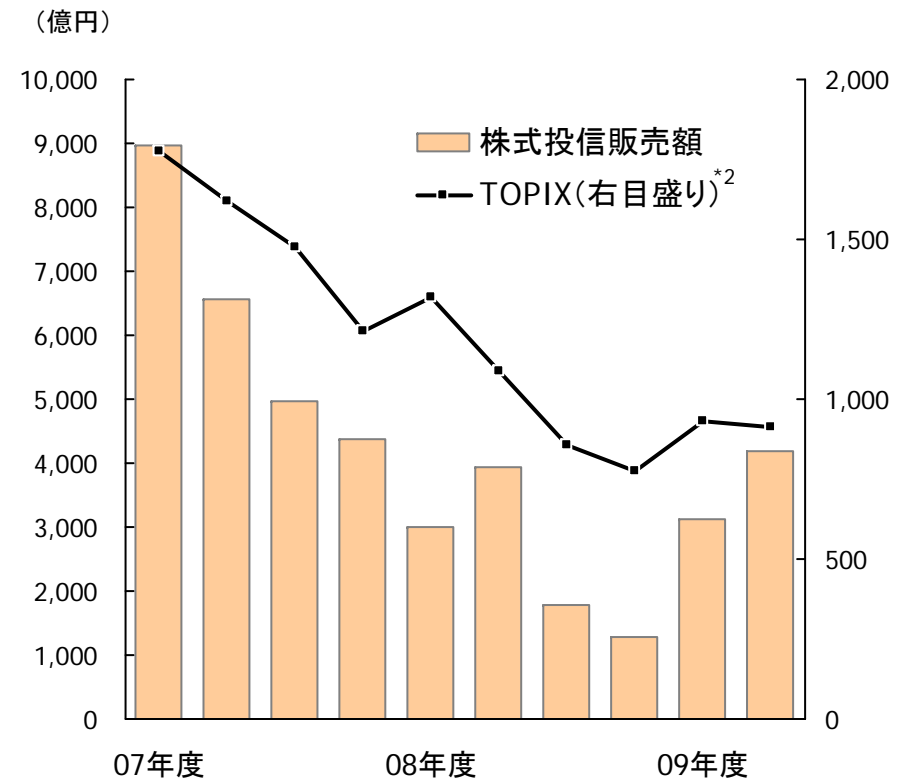
- 総預り資産残高は着実な預金増と時価上昇により増加基調へ回帰
- 株式投信販売額も反転増加

総預り資産残高の推移*1



*1 管理会計ベース

株式投資信託販売額の推移*1



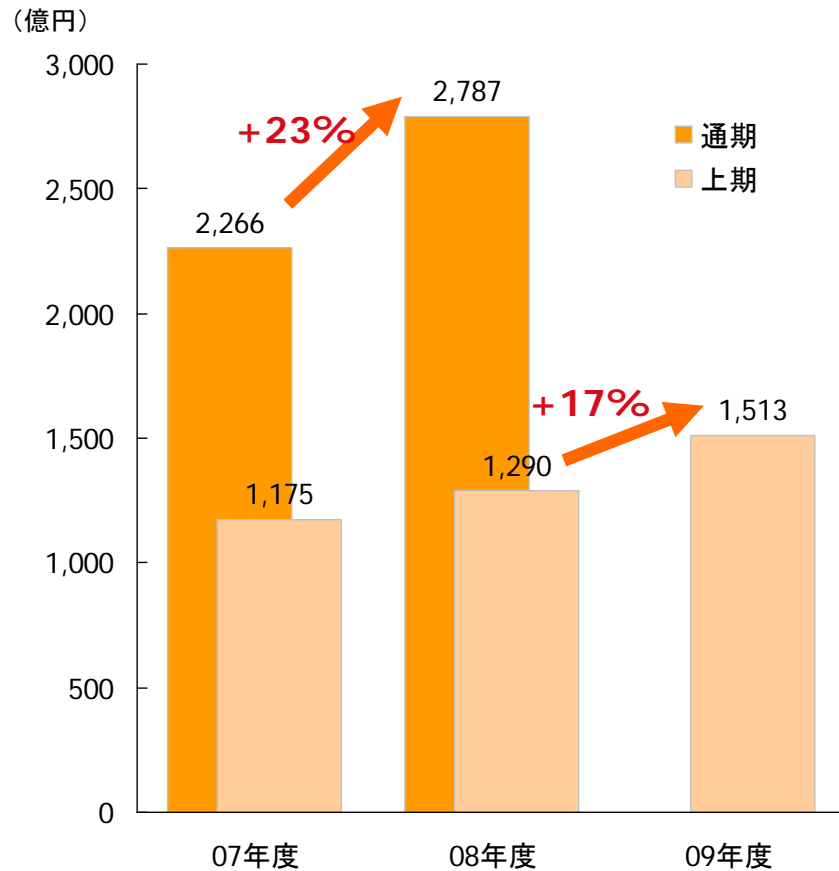
*2 終値ベース

成長戦略：法人海外



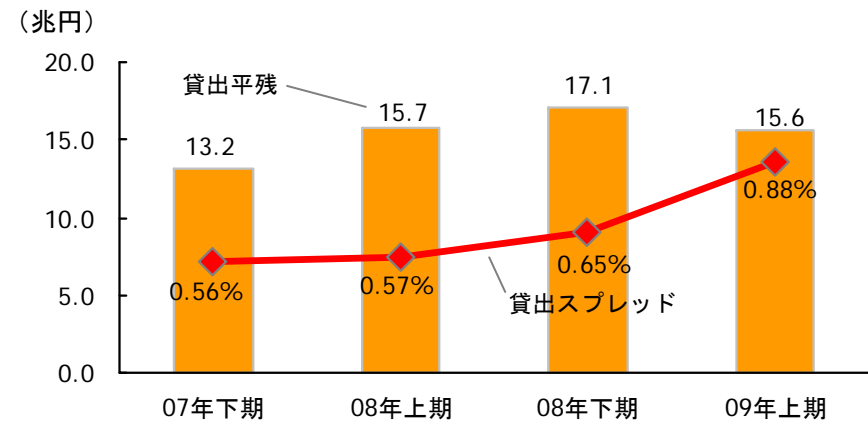
- 法人海外部門の営業純益は引き続き好調
- 海外市場でのプレゼンス拡大を背景に、貸出収益だけでなく手数料収益も増加

連結営業純益*1,2

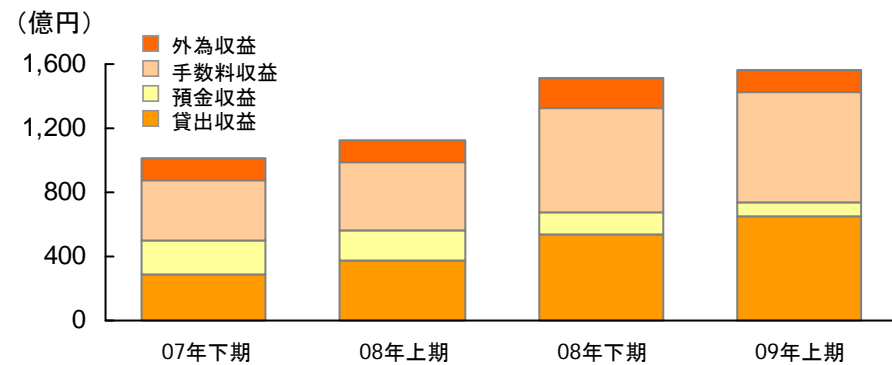


*1 管理会計ベース
*2 08年上期と09年上期の数字はCDSヘッジ損益を除く

海外貸出残高とスプレッド(連結・UNBC除く)



粗利益の内訳(UNBC除く)*3



*3 商業銀行連結計数(除くUNBC)、為替レートは業務計画レート(1\$=95円、他)

モルガン・スタンレーとの戦略的提携①



- グローバルベースで戦略的提携を具体化
- 出資からも高いリターンを享受

グローバル・アライアンス戦略

①日本における証券会社の統合で合意

②コーポレートファイナンスにおける協働

～米州ローン・マーケティングJVの設立
～アジア、欧州・中東・アフリカ(EMEA)に
おける相互顧客紹介

③コモディティ業務における顧客紹介

④人材交流

他の業務分野における施策も随時検討

モルガン・スタンレーへの出資の概要

① 出資の概要

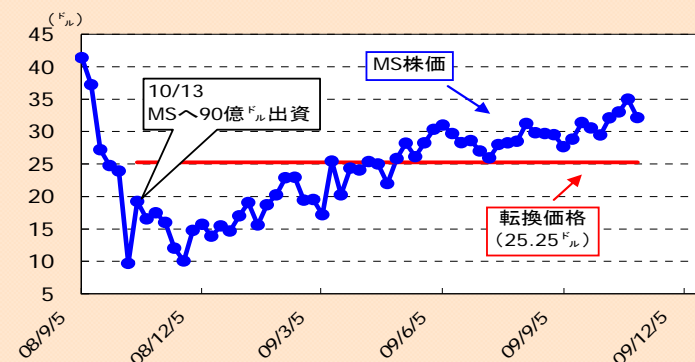
普通株	1,176百万ドル	4,655万株
転換型優先株	7,839百万ドル	783万株
社債型優先株	519百万ドル	51万株

・MUFGは潜在株式調整後で出資比率20%を維持する権利を有するほか、出資比率10%以上を維持する限りにおいて取締役1名を派遣する権利を有する

② 09年度上期収益影響

・配当収入 391億円

③モルガン・スタンレーの株価推移

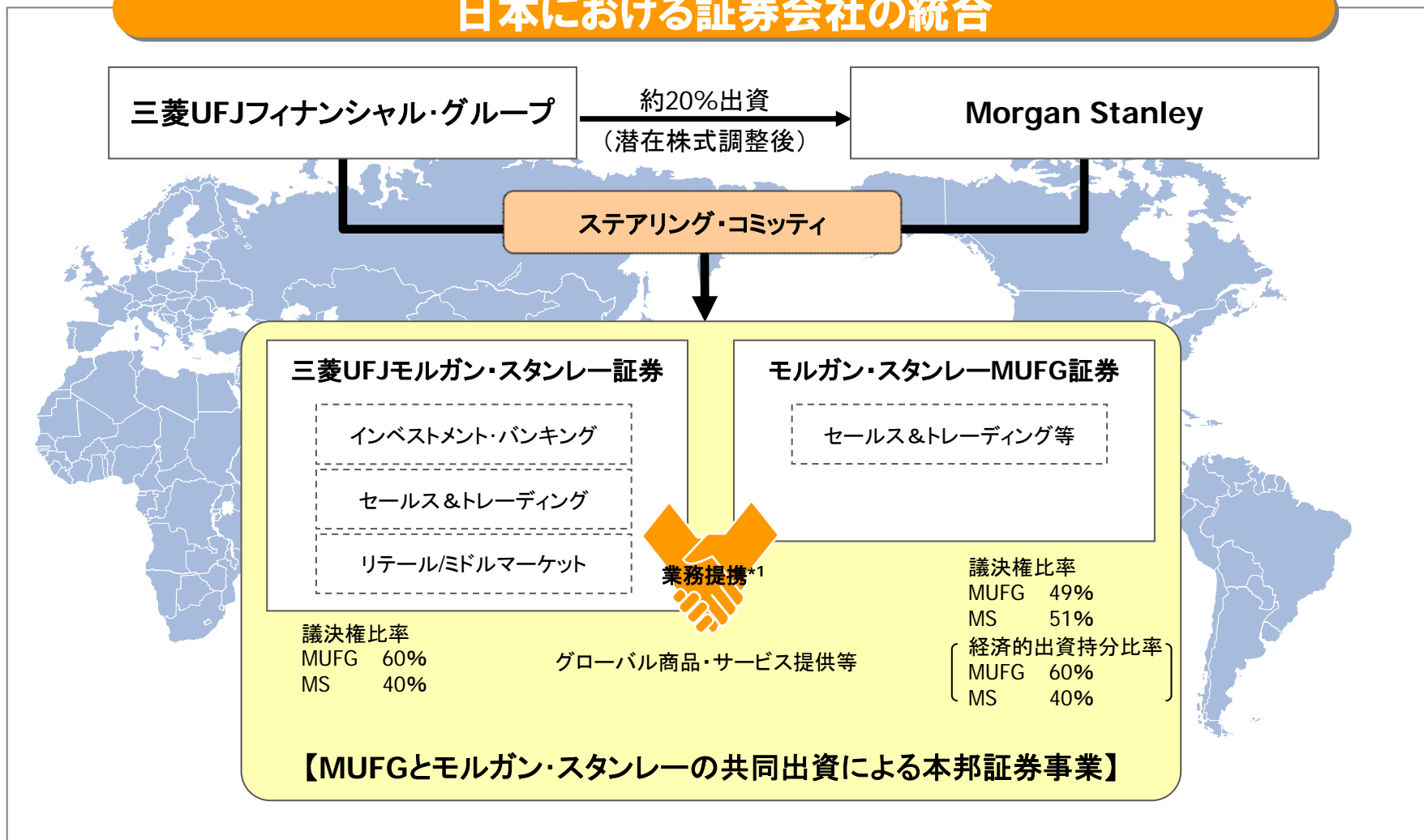


モルガン・スタンレーとの戦略的提携②



- 両社のネットワークと顧客基盤等を最大限活用すべく、2つの共同出資会社を来年5月をめどに設立
- 2つの新会社が緊密に連携し、世界でトップクラスの証券業務や投資銀行サービスを提供

日本における証券会社の統合

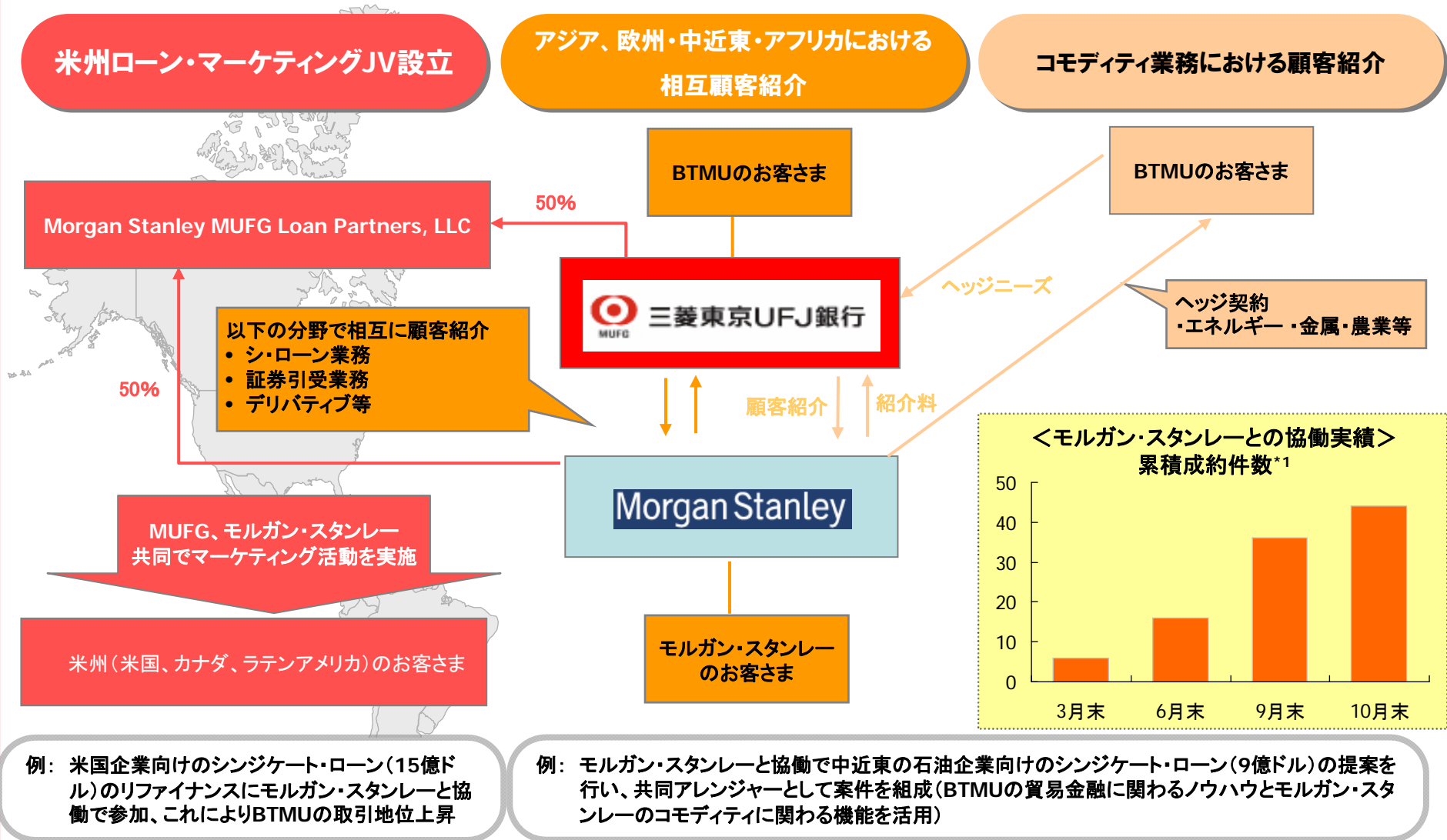


*1 三菱UFJ Morgan Stanley証券とMorgan Stanleyとの業務提携も含まれる

モルガン・スタンレーとの戦略的提携③

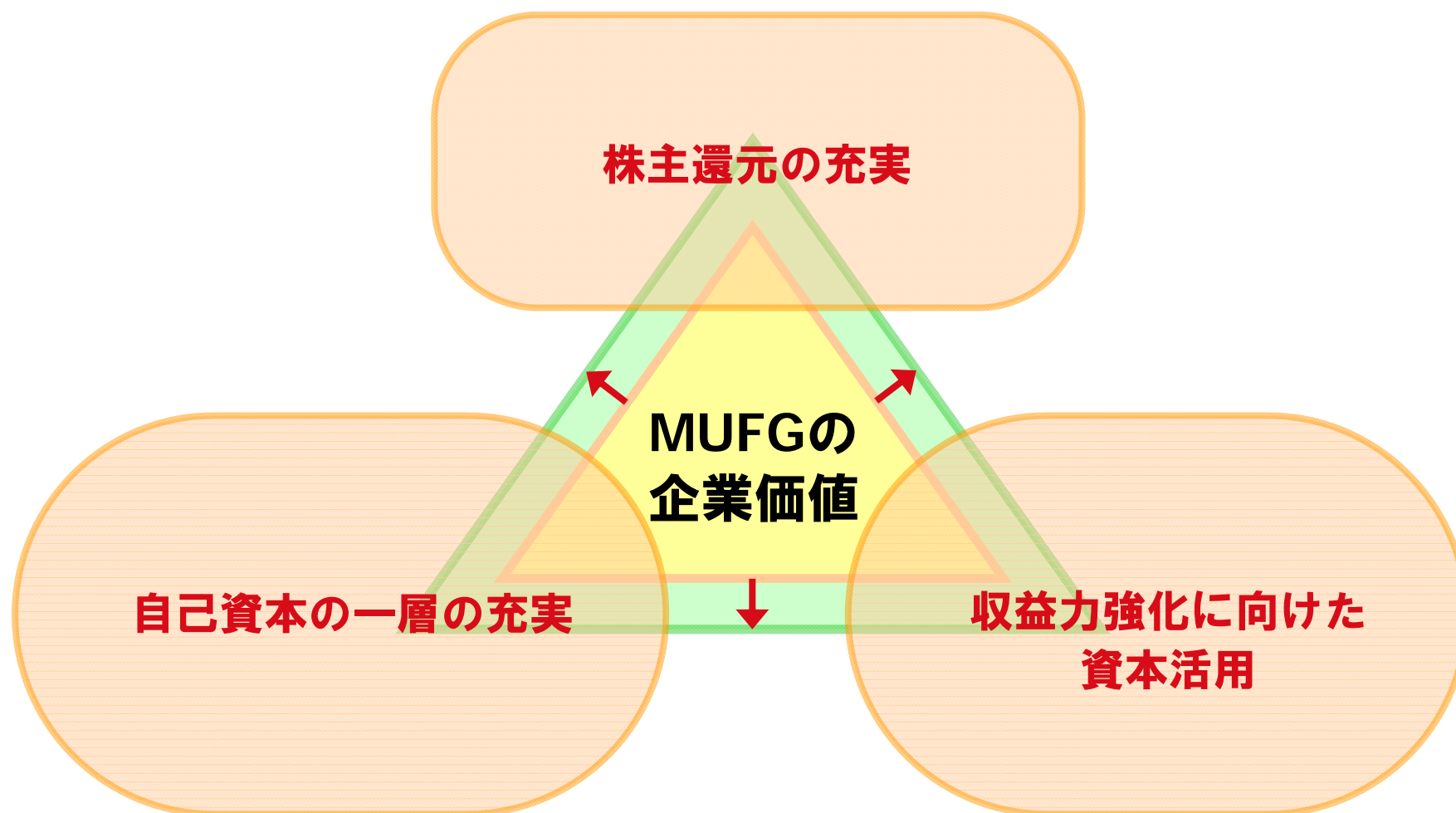


- 海外における戦略的提携では着実な成果



*1 マンデート取得件数を含む、MUFGの内部管理計数

- 「自己資本の充実」、「収益力強化に向けた資本活用」のバランスをとりながら、安定的な株主還元
の確保をめざす



- **金融機関としての信頼性を一層高め、グループ総合力を活かした商品・サービスをグローバルに提供することで、お客さま・社会のご期待に応える**
- **幅広いステークホルダーを意識した経営の実践により中期的な株主価値向上を目指す**

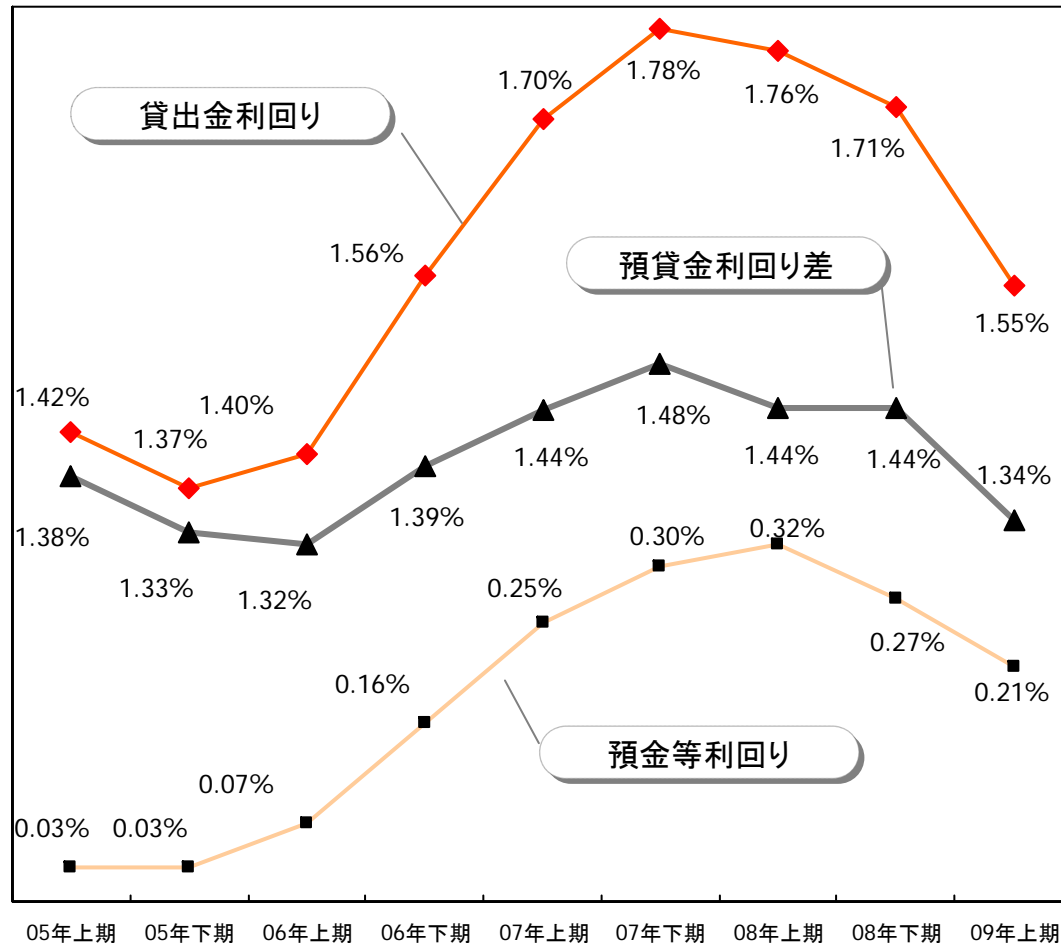
余白

Appendix

Quality for You 
MUFG

●09年上期の預貸金利回り差は1.34%

国内預貸金利回りの推移(単体合算)



【金利改定状況】

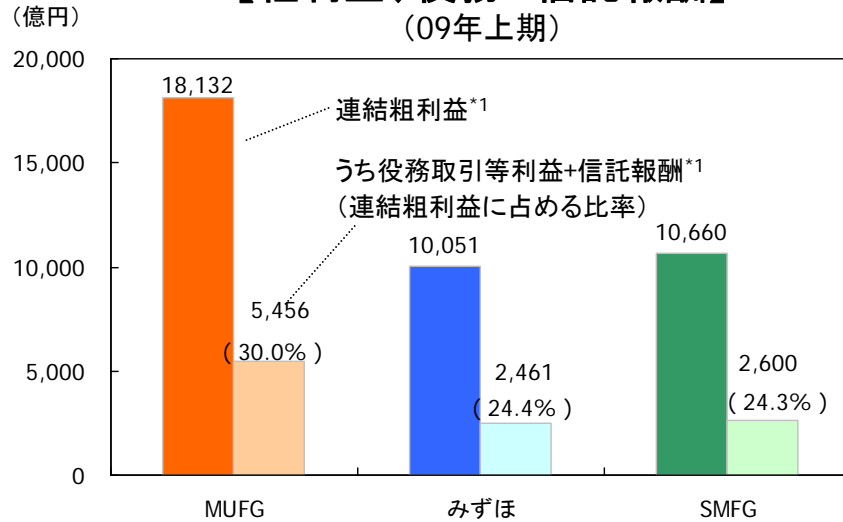
- 2008年11月4日
普通預金金利 0.200% ⇒ 0.120%
- 2008年11月20日
短期プライムレート 1.875% ⇒ 1.675%
- 2008年12月22日
普通預金金利 0.120% ⇒ 0.040%
- 2009年1月13日
短期プライムレート 1.675% ⇒ 1.475%
- 2009年4月1日
新規住宅ローン変動金利
⇒3月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利
を基準に変更
- 2009年7月1日
既存住宅ローン変動金利
⇒4月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利
を基準に変更

主要計数の他グループ比較

各社開示資料より作成

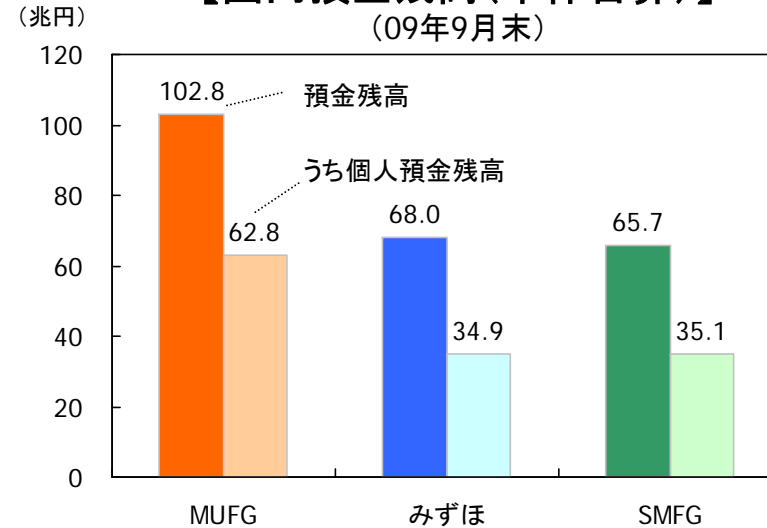


【粗利益、役務+信託報酬】
(09年上期)

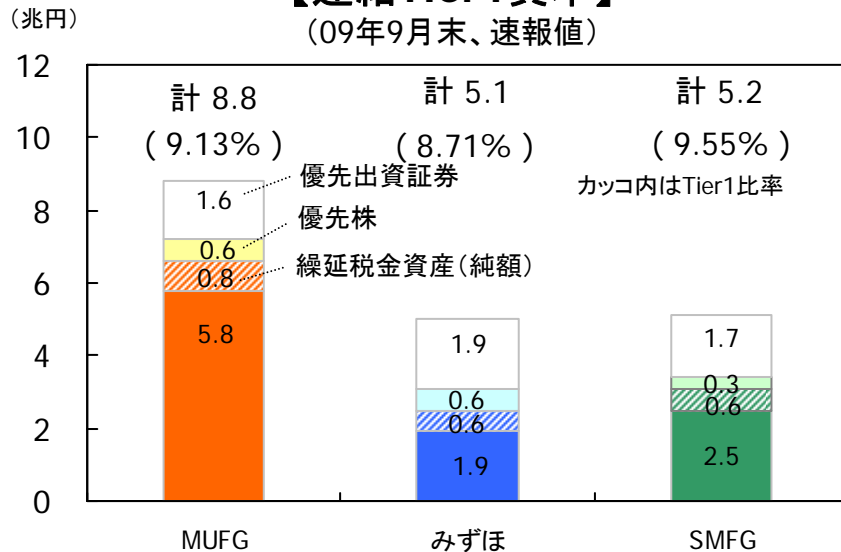


*1 MUFGは信託勘定償却前

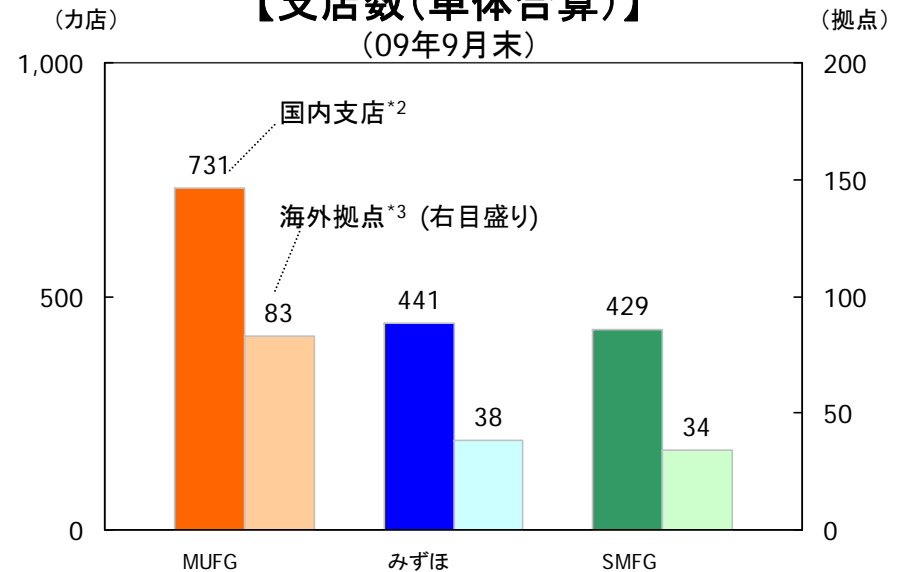
【国内預金残高(単体合算)】
(09年9月末)



【連結Tier1資本】
(09年9月末、速報値)



【支店数(単体合算)】
(09年9月末)



*2 出張所、代理店、駐在員事務所等は除く

*3 支店、出張所、駐在員事務所の合計

「データブック」P. 85もあわせてご参照ください

サービス
No.1

Quality for You

信頼度
No.1

国際性
No.1